

静岡大雨

土砂崩れ懸念に男児救出

停電、交通乱れ 住民、観光客に疲れ

記録的な大雨に見舞われた静岡県では二十四日、各地で土砂が崩れて住宅を押し、送電鉄塔の倒壊で大規模な停電も発生、交通機関の乱れから「コンサート客約千人が帰宅できなくなつた。「まだ子どもが中

に」。住宅三棟が崩れた山市天竜区では、家中に取り残された男児(五歳)の救出に近隣住民らも加わり、無事が確認されると安堵の声が広がつた。=関連●面

天竜区の土砂崩れは二四日未明に発生。巻き込まれた住宅は一階部分が完全に壊れていた。救助を手伝つた高柳昌弘さん(42)は、子どもの「痛い、痛い」という声を聞いたといつ。男児はテレビの下敷きになつており、住民や消防隊員に

救援を手伝つた。

掛川市では住宅が土砂崩れに巻き込まれ山崎恒司さん(55)が死亡。近くに住む六十代男性は「自宅の裏山は大丈夫だらうか」と心配で済んで安心した」と胸をなで下ろした。

掛川市では住宅が土砂崩れに巻き込まれ山崎恒司さん(55)が死亡。近くに住む六十代男性は「自宅の裏山は大丈夫だらうか」と心配で済んで安心した」と胸をなで下ろした。

土砂崩れで倒れた送電鉄塔=24日午後1時43分、静岡市葵区で、本社へり「おおづる」から

た。早く帰りたい」と疲れた様子で話した。

静岡市の繁華街、呉服町通りは連休中にもかかわらず停電で電気が消え、閉じたシャッターに「臨時休業」の張り紙が並んだ。近くに住む女性(42)は「せつかく來たが仕方ない。一帯でこんなに長く停電が続いた」とはなかつた」とほ